

第15回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1. 日 時：平成15年1月28日（火）9：30～12：00
2. 場 所：奈良県商工会議所 5F 大会議室
3. 出席者：委員（敬称略）池淵周一、伊藤章子、近江昌司、荻野芳彦、北口照美
御勢久右衛門、榊原和彦、澤井健二
奈良県 榊原土木部次長、金剛補佐、入口係長 ほか

4. 議事

(1)第14回奈良県河川整備委員会の議事概要の確認について

- ・事務局より、第14回委員会議事概要の説明
各委員により了承された。

(2)「奈良県の管理する河川の目指すべき方向性（大和川水系）について」

- ・事務局より、これまでに提示した大和川水系の目指すべき方向について、修正案を説明。

(3)意見交換

○総合治水の整備効果について

- ・総合治水の効果表で、昭和57年8月洪水と平成7年7月洪水を比較し、全体被害は確かに減っているが、単位面積当たりの被害額が増えているのは効果といえるのか。（池淵委員長）
- ・総合治水のねらいは、流域に貯留施設を設けて市街地を守ることを目的としているはず。効果が逆に表れているように感じる。（荻野委員）

→昭和57年8月洪水に対して、総合治水対策の有無で比較すればわかりやすいと考えているが、解析が困難なため、平成7年7月洪水との実績を比較し、全体被害は減少しているが、市街化が進んでいることを説明したかった。しかし、言われるとおり、このままでは誤解を招くので、表現方法を再検討したい。（事務局）

- ・実際に効果は表れているのか。（池淵委員長）
- ・これまでに行ってきた総合治水の効果を表現できなければ、整備計画のテーマとしている「総合治水対策の確立を目指す」に説得力がない。（榊原委員）

- ・「概ね5年後の完了河川の対策効果」を現しているが、このように数字で書いてあるとわかりやすい。(北口委員)
 - ・10年に1回の計画的な洪水のときにどうなるかで表現しては?それを越えるような超過洪水についてはきりが無い。(荻野委員)
 - ・効果の計測方法、超過洪水に対する考え方などの整理が必要である。(池淵委員長)
- 総合治水の対象となっている昭和57年8月降雨では表現できる。(事務局)

○二つの実績降雨について

- ・農地の被害面積を考慮するから、昭和57年8月の単位面積当たりの被害額が小さくなる。市街化区域のみで比較してはどうか。(澤井委員)
- ・あえて、比べる必要もない。H7年にはこんなに被害が大きかったのはどういう原因だったとか、これだけ工事をし、いろいろな配慮をしてきたが、こんな豪雨がきたらこうなったということを表す方が住民にとってもありがたい。
- ・グラフにしなくても、文章でこういうことが注意事項ですよというふうに示してもらおうと住民の意見ももっと出てくると思う。
- ・単位面積当たりの被害額が増えていることについては、効果よりも実態として被害原因の分析を行って表現した方がわかりやすい。また、地域によっても被害の特徴が異なるはず。(伊藤委員)

→S57年8月洪水では、浸水面積が大きかった。平成7年降雨はそれが小さかった。

○地域ごとの優先順位の付け方について

- ・岩井川ダムを100年確率で整備するのは、市街地を守るためと説明しているはず。また、農地部を流れている河川では、改修を実施しない河川もあるはず。優先順位をつけるのだというからには、住民のコンセンサスが必要。(榊原委員)

→河川改修は、下流から順に実施し、遅れているところ(整備が困難なところ)では上流で貯留施設を整備している。ご指摘のあった、効果の表現方法とともに、整理し直して提案したい。(事務局)

○総合治水対策にとって下水道とは？

- ・総合治水対策には、下水道は入っていないのか。関係部局との連携についてはどうなっているのか。（榊原委員）
- ・総合治水と言いながら、縦割り行政と思われている部分があるはず。それを払拭するためにも、関係部局との連携について説明する必要がある。（池淵委員長）
- ・下水道もこんなに進んでいるが、ここでは下水道にもちょっと心配なところがあるということも先々見ていっていただきたい。（伊藤委員）

→総合治水対策の今の計画の中に下水道は入っている。国、県、市町村で協議会を作り、貯留施設の整備や土地利用規制などを進めている。下水に貯留させる施策や、下水道整備の接続先河川などは優先的に整備を進めている。しかし、この資料においては表現していなかった。

○大和川の特徴の検証について

- ・大和川流域は雨が少ないので、河川流量が少ない。浄化センターの水を河川に戻すようなことも考え、利水、環境も含めて総合的な整備をしてもらいたい。
- ・大和川の特徴を一言で表現できるように、3本柱を1つにまとめたものはできないか。そのためにもまず、砂ばかりで生物がないとか、地質はどうだとか、流域人口が非常に多いとか、森林がないとかいった大和川の河相の特徴をまず整理してはどうか。（御所委員）
- ・水資源の涵養および有効活用とは何を言っているのか。（池淵委員長）

→総合治水で整備している貯留・浸透施設の活用のこと。御所委員からも発言のありました下水処理水のリサイクルなども検討すべきと認識している。

○今後の進め方について

- ・言葉や文章としてはあるが、平面的。ここに住民からの意見を踏まえてこれを実効あるものにするのか？（池淵委員長）

→布留飛鳥圏域の整備計画をまとめるため、重要な部分となる基本理念について再度議論していただくため、大和川水系全体のエキスを示したつもりだった。次回からは、布留飛鳥圏域の具体的な整備方針について議論し、3本柱にフィードバックするような形にしたい。（事務局）

- ・もっと市民感覚をとり入れ、専門家も含めた広い範囲での意見集約をしてもらいたい。プレーンストーミングを経て原案を造っていく。それに基づいて河川管理者がいろいろ考えていく。（荻野委員）
- ・住民の意見を聴くことについても、川づくり懇談会などがあるが、いつも参加者が少ないなどの問題もある。まだ、河川管理者の説明の濃度が濃いということであれば、この委員会の運営をさらに協議することも検討していきたい。（池淵委員長）

(4)布留飛鳥圏域の概要説明

- ・時間の都合により割愛。次回委員会で提示。

(5)布留飛鳥圏域の河川と歴史

- ・近江委員より、布留飛鳥圏域の代表河川である大和川、飛鳥川、寺川、布留川について、歴史との関わりについて講演があった。

(6)今後のスケジュールについて

- ・2月下旬から3月中旬において、布留飛鳥圏域の現地視察を行う。
- ・第16回委員会は4月に予定している。